

臨床総合実習Ⅲ（地域）

【科目名】臨床総合実習Ⅲ（地域）		【担当教員】永松一真、作業療法専攻教員 （メールアドレス） nagamatsu@nur05.onmicrosoft.com （オフィスアワー） 月曜～金曜、8：30～18：00
【授業区分】 専門分野（臨床実習）	【授業コード】 4-25-1010-0-1	
【開講時期】4年通年	【選択必修】必修	
【単位数】2単位	【コマ数】46コマ	
【注意事項】 （受講者に関わる情報・履修条件） 実習の手引きを熟読しておくこと。 事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 （受講のルールに関わる情報・予備知識） 実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。 臨床総合実習Ⅲ終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。		
【講義概要】 （目的） 臨床総合実習Ⅱの後に臨床総合実習Ⅲを実施する。臨床総合実習Ⅲの目的は(1)病院・施設から地域に移行する際の問題を学ぶ。(2)問題を解決し、地域を支えるソフト・ハードを含めたマネジメントを学ぶ。 （方法） 臨床総合実習Ⅲは4年次に行う。2週間は訪問看護ステーションやデイサービスセンター、障害者総合支援法指定施設を含めた地域関連施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。加えて1週間は学内で実習を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 作業療法士として必要な、地域リハビリテーションの対象者の障害に応じた評価と治療について修得する。 地域リハビリテーション分野で臨床を行う実習指導者の実践の目的、方法について理解することができる。 地域リハビリテーション分野における作業療法の業務について把握し、専門職としての態度や行動を身につける。		
【行動目標(SBO)】 地域リハビリテーションの対象者の評価と治療の概要を述べることができる。 臨床実習指導者の行う実践の目的、方法について理解し、述べることができる。 臨床実習指導者の業務について把握し、適切な態度、行動をとることができる。 臨床実習指導者の業務を補助し、その一部を実施することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 実習の手引き		
【参考書】 編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ（第2版）、医学書院、2011年、¥4,200（税別）		
【評価に関わる情報】 （評価の基準・方法） 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 臨床評価実習のGPA、実習中の課題、事例報告の内容から総合的に評価を行う。		

平成 26～28 年度入学者用

評価基準の詳細は「実習の手引き」に記載する。

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成果 発表	実技 (実習)	ポ ー ト フ ォ リ オ	その他	合計
総合評価割合		0	0	10	10	80	0	0	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリー ダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営 方法	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
学外実習				
1・2	オリエンテーション(学内) 臨床総合実習Ⅲの目的、注意事項、提出書 類の確認、事故防止、感染予防等	講義	施設調査 自己課題の確認	
3～12	臨床総合実習Ⅲ(学内セミナー)	演習	配布資料を読んでおく。 評価学および治療学の内 容を復習しておく。	
学外 1 週目	臨床総合実習Ⅲ(学外)	実習	デイリーノート、その他	
学外 2 週目	臨床総合実習Ⅲ(学外)	実習	デイリーノート、その他	
13～23	臨床総合実習Ⅲ(学内セミナー) 専任教員からの指導、学内実習、レポート発 表	演習	グループ課題 課題レポート提出	

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の 3 倍)に含むべき時間を示します。